

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 10 日現在

機関番号：22501
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21792290
 研究課題名（和文） 幼児後期の子どもを対象とした手術に伴う苦痛緩和ケアプログラムの開発と評価
 研究課題名（英文） The development of care model that aimed to assist preschool children in dealing with their surgery positively.

研究代表者
 石川 紀子（Ishikawa Noriko）
 千葉県立保健医療大学・健康科学部・講師
 研究者番号：70312965

研究成果の概要（和文）：

幼児後期の子どもは手術に伴う苦痛緩和を目指したケアプログラムを考案・その効果の検討を行うことを目指して、調査を行った。その結果、幼児後期の子どもは手術に伴う苦痛緩和を目指したケアプログラムには、【苦痛に対する子どもの準備状態の強化】、【苦痛に対する子どもの対処能力の強化】、【親から子どもへのサポート行動の促進】、【子どもの対処行動の促進】の要素を含む援助の実施が必要であることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study was to development and examine the care model that aimed to assist preschool children in dealing with their surgery positively.

The care model required four elements, preparation for pain and medical care regarding their surgery, management for pain regarding their surgery, support from their family, and coping with their pain regarding their surgery.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	200,000	60,000	260,000
2011 年度	200,000	60,000	260,000
総計	900,000	270,000	1170,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：小児、幼児、手術、看護

1. 研究開始当初の背景

手術に伴い子どもは、手術前後の飲食の制

限、注射を含む処置による痛み、手術に伴う創部の痛み、活動制限、さらに入院や処置場

面による親との分離などさまざまな心身の苦痛を体験する。

そのような中、幼児後期の子どもは認知発達段階が前操作的段階にあり、一貫した論理的操作はまだみられず、体験する苦痛に対する不安や思いを周囲に表現することや、認知的・行動的に対処することも難しい。

手術を受ける幼児後期の子どもに対する説明やプレパレーション（心理的準備）の重要性は報告されており、多くの施設では手術を受ける子どもへの援助として術前オリエンテーションが行われている。しかしその内容は主に手術室の環境や、手術前後の経過に関する情報提供が中心であり、子どもが体験すると予想される苦痛や不快、それらに対する対処行動に関してはほとんど説明されていない。手術を受ける幼児後期の子どもへの援助として、手術に関連して体験することや苦痛への対処方法を具体的に知り、手術に関連した思いを表出する場が設けられ、手術前後を通して子どもの心理的混乱を生じやすい場面で繰り返し援助が行われる等、発達段階にあわせた援助が望まれるが、体系的な援助が確立されていない現状にある。

2. 研究の目的

幼児後期の子どもに手術に伴う苦痛緩和を目指したケアプログラムを考案・その効果の検討を行うこと。

3. 研究の方法

幼児後期の子どもを対象とした手術に伴う苦痛緩和ケアプログラム作成のための情報収集として、国内の事例・研究報告や文献調査を進めながら、手術を受ける幼児後期の子どもの特徴と、援助の実状について調査し、ケアプログラムに必要な、援助の構成要素について検討を行った。

4. 研究成果

幼児後期の子どもは手術に向かう経過や手術後の様々な場面毎に新たな不安を生じやすく、継続的に援助を行うことが必要であることが示唆された。また手術を受ける幼児後期の子どもに対して、現状では術前に1回のみでの介入が行われているが多かった。幼児後期の子どもの特徴を考慮すると、手術前後を通じた継続的な視点でのケアプログラム必要性が示唆された。また、幼児後期の子どもに心理的混乱の軽減には、親からの積極的な関わりがよい結果をもたらすと言われているが、親から子どもへのサポートについての客観的指標や指針は確立されていない現状にあった。

これらの要因の分析から、幼児後期の子どもに手術に伴う苦痛緩和を目指したケアプログラムには、以下の4つの要素が必要であ

ることが明らかとなった。

①手術に伴う苦痛に対する子どもの準備状態が整っているかについて繰り返しアセスメントし、援助していくこと【苦痛に対する子どもの準備状態の強化】、②苦痛に対してどのように対応すればよいかについての練習を行っていくこと、【苦痛に対する子どもの対処能力の強化】、③親の不安の軽減を図り、親から子どもへのサポートを促進する援助を体系的に行うこと【親から子どもへのサポート行動の促進】、④手術前に子どもが予測していた状況と手術後の現実の状況を結び付けていくこと【子どもの対処行動の促進】と、これらの要素を基にした、体系的な援助の実施が必要であることが明らかとなった。

ケアプログラムを基にした援助を実施するにあたり、研究協力を得られる医療機関や対象となる子どもと家族の確保に難渋したため、その効果の検討にはいたらなかった。多忙な医療現場において、効果的に援助を進めていくには、対象特性をアセスメントするための指標や、子どもの家族の特性に合わせて援助のツールの開発が必要であり、今後さらなる検討が必要である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川 紀子 (Ishikawa Noriko)
千葉県立保健医療大学・健康科学部看護学
科・講師

研究者番号：70312965

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし